

■教育目的

「天然物由来の薬物」である生薬は、古来より医薬品として利用されてきた。これを踏まえ、医薬品としての生薬ならびに医薬品開発における天然薬物の重要性、特に代表的な薬用植物や生薬について含有される薬効成分などを中心に幅広く理解し、あわせて、現代医療に用いられている主な漢方処方についても概説できることを目的とする。

【卒業認定・学位授与の方針:SD-①、SD-③、SD-④】

■学習到達目標

1. 自然が生み出す薬物として、薬になる動植物について理解する。(知識)
2. 薬の宝庫としての天然物を理解する。(知識・技能)
3. 現代医療の中の漢方処方および、それを構成する生薬について理解する。(知識・態度)

■準備学習（予習・復習）

予習：シラバスをもとに教科書など関連する箇所に目を通しておく。(20分以上)

復習：教科書、配布プリントなどで、授業内容が理解出来ているか確認する。(30分以上)

■授業形態

講義

■授業内容

No.	項目	授業内容	学修／SBOコード
1	生薬とその歴史	生薬とは何か、生薬の歴史と医薬品の誕生	
2	生薬の基原植物の形態と分類	生薬の基原植物の形態と分類、生薬の学名	
3、4	生薬成分の化学的分類	代表的な生薬成分の科学的分類	
5、6	生薬成分の化学構造	代表的な生薬成分の化学構造の書き方	
7	生薬とマラリア	人類の病気との闘いと生薬	
8、9	生薬各論	代表的な生薬の基原	
10	生薬の品質評価	生薬の品質評価に関連する日本薬局方の生薬関連事項(通則、生薬総則、一般試験法など)	
11	生薬生産と流通	生薬生産と流通における留意すべきこと	
12～15	漢方薬・まとめ	漢方医学の基礎と代表的な漢方薬・まとめ	

■授業分担者

佐々木 寛朗(No.1～6・8～14)、小林 照幸(非常勤講師)(No.7)、馬場 正樹(No.15)

■課題（レポート、試験等）のフィードバック及び成績評価方法

質問は随時受け付け、その一部は次回講義で解説する。また、学習相談等で試験に関するフィードバックも行う。期末試験(90%)、課題等(10%)で総合評価する。

■教科書

『パートナー生薬学 改訂第4版増補』木内文之ら 編(南江堂)